



桜花もほころぶ素晴らしい青空の下、平成26年度の入学式が4月1日、本校体育館で行われ新入生300人（情報文化学部183人、国際学部117人）と編入学生1人（情報文化学部情報文化学科）の合計301人が、本校みづき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。

希望に満ちた表情の新入生に、平山征夫学長は式辞で「自ら主体的に楽しく学び、専門分野は深く、思考と感受性を豊かにする分野に広く関心を持ち人間性を育み、友人と大いに夢を語り、自身の将来の生きる道、生き方を見出してほしい」と激励しました。

平成26年度(第21回)入学式 気を引き締めて301人



友と歩もう夢つくる道を 自ら学べ 楽しく学べ

在学生を代表して情報文化学部情報文化学科の大沼竜二さんが「勉学も研究もクラブ活動も大いに楽しむぞ、という気概で臨んでください。自分から考え行動し多くの人と関わり充実した学生生活を送りましょう」と歓迎。これに対し新入生代表の情報文化学部情報システム学科の後藤颯樹さんが「膨大な情報を正しく理解し、見極める判断力や分析力を身に付け、その力を生かして社会に貢献できる人間になりたい。友と同じ夢に向かって成長していきたい。」と頼もしく抱負を述べました。

海外から届いた派遣留学・夏期セミナー提携5大学の祝福ビデオメッセージも披露された後、新入生たちは各サークル代表が競って歓迎する長い列を通り抜けて校舎に入り、新たな気持ちで早速ガイダンスなどに臨みました。



CONTENTS

2・3・4・5面

平成26年度入学式特集

新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉
両学部長のメッセージ

6・7面

科学の祭典にブース出展
景況に期待・学内企業説明会
開学20周年記念事業

学生企画プロジェクト
起業支援プロジェクト
国際交流フェアを開催

サークル紹介（ダンス部）
オープンキャンパス2014案内

8・9面

派遣留学・海外夏期セミナー帰国報告

10・11面

雪室で情報センター棟を快適冷房
学生食堂リニューアル

新大工学部とも単位互換協定
退任教員あいさつ

12～16面

平成25年度卒業式特集

卒業にあたって・思い出と決意
JABEE認定10人に修了証書
特別表彰 式典スナップ



NUIS公式フェイスブック

https://www.facebook.com/nuis.face



NUISスクールアプリ開設しました

iPhone・iPad・Androidスマートフォン・タブレット向け
App StoreまたはGoogle Playストアから新潟国際情報大学で検索
アプリをダウンロードしてご利用ください。

LINE@
@nuis-line3111

はじめました。

LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録

入学式



新潟国際情報大学
学長 平山 征夫

幅広い分野に興味を持ち 将来の生きる道を見出そう

新入生の皆さん、本学への入学おめでとうございます。本学役員、教職員等を代表いたしまして、皆さんに心からお祝いを申し上げますとともに歓迎申し上げます。

本学は平成6年に開学し、昨年創立20周年を迎えたところです。従いまして皆さんは本学としては21回目の入学生となります。毎年このみずき野キャンパスに春とともに新入生を迎え、本日21回目の入学式を迎えられましたことは、本学の設立に関わりました一人として感無量であり、大きな喜びを持ってこの日を迎えました。

皆さんはこれからこのみずき野キャンパスで4年間の大学生活を送るわけですが、期待と不安が胸がいっぱいのことと思います。でも心配はいりません。私も教職員挙げて皆さんがスムーズに大学生活に溶け込めるようサポートしますので、分からないことは遠慮なく質問し、一日も早く大学生活に慣れ、有意義な日々を送れるよう体制を整えてください。

21年目の新たなスタートを切る本学の新たな歴史を、皆さんと一緒に刻むわけですから、

が、本学は幸い多くの先輩教職員、卒業生たちの努力もあって、この20年という比較的短い歴史にもかかわらず、地域から信頼される存在として評価されるようになりました。こうした伝統を皆さんに引き継いでいただき、さらに頼られる存在になるよう期待をしているところです。また大学としては、20周年を機に種々の大学改革を実施、国際学部を新設し本年度から2学部制にし、さらなる発展のための体制を整えたところです。また、より充実したキャンパス生活を過ごせるよう、皆さんの活動拠点としての学生会館を、記念事業として現在建設中です。完成後は大いに活用くださいます。

本年は情報文化学部情報システム学科183名、国際学部国際文化学科117名、情報文化学部情報文化学科編入学1名、合計で301名の新入生を迎えました。私をはじめ教職員一同、建学の理念であります「わが国の社会、文化についての認識と理解を基礎に、国際化、情報化の社会の中で役に立ち、能力があり、意欲があり、人間性豊かな人物を育成する」という目的に向かって、皆さんが日夜勉学に勤しみ、人格・人間形成に励むことができるよう最大限サポートしてまいりますので、皆さんも全力でぶつかってきてください。

入学式に当たり学長として皆さんに少しお願いをしたいと思います。大学は高等教育の場です。皆さんは先ほど述べました本学の建学の精神等に共鳴し国際文化、語学、情報システム、経営情報といった専門分野に興味を抱いて、高等教育を本学で学ぶことを選択したわけですから。私たちは皆さんのそうした希望に応える責任があります。皆さんにもご自分の目的に向かって努力する責任があります。学生の本分は学ぶことです。私たちは全力で皆さんの教育指導に当たります。でもなんといっても学ぶのは皆さんです。

最初のお願いは当たり前のことですが「しっかりと勉強してください。入学したら早期に勉強する習慣を身に付けてください」ということです。大学では高校までのように知識を得るために学ぶだけではなく、知識を生かすこと、得た知識をもとにそこから真実を見出すべく考えることが求められます。考える訓練が思考力となつて、判断力も磨いてくれます。一般基礎知識と専門知識をバランスよく学び、深い専門知識とともに、人間性豊かな人格形成にも努めることも忘れないでください。

大学では自ら主体的に学ぶことが求められます。高校のように決められた授業スケジュールに従って学ぶものではありません。何を学ぶかカリキュラムをつくるのは自分です。しかも選んだ授業に出るか休むかも自己判断です。これまで見ていますと大学入学後最初の半年間に自ら学ぶという生活習慣を身に付けることが何よりも重要です。それができないと授業についてゆけず、欠席しがちになってしまいます。最初の半年間に学ぶ習慣をきちんと身に付け、学ぶことの楽しさを知ってください。

私は「大学は魚に泳ぎ方を教えるところだ」と言っています。もともと泳げる魚に泳ぎ方を教えるのは、より正しい泳ぎ方を教えることで、魚が自らの力でより力強い泳ぎ方を身に付けるためです。もともと皆さんは学ぶ力を持っているのです。皆さんのその力を最大限引き出すのが大学の役割だと思っています。入学後極力早く泳ぎ方の基本を身に付け、自分で泳ぎ始めてください。

もうひとつのお願いは「できる限り幅広い思考のできるようないろいろな問題に関心を持ち、自分の考えを持つようにしてください」ということです。そのトレーニングが人間としての思考力を深めると同時に、相手の意見をも受け入れる包容力を身に付けさせてくれます。包容力のある人間性豊かな人格を形成していくことが、信頼される人間になる条件です。そのためには深く専門分野を学ぶことと同時に幅広く哲学、文学、美術、音楽など思考と感性を豊かにしてくれる分野にも大いに興味を持って取り組んでください。クラブ活動や、先生や友人との人間関係からも多くの事を得るでしょう。積極的に部活や友人づくりにも取り組んでください。入学式の最後に本校の校歌が歌われますが、その中に「あこがれを空に描いて 友と歩もう 夢創る道を」という歌詞があります。まさに本学で皆さんは豊かな人間性を育み、友と互いの夢を語り、その実現のために学んでください。

先日卒業式で、卒業生を送る言葉として私の尊敬している経済学者ソースティン・ヴェブレンの一九二九年の世界恐慌を亡くなる直前予告した言葉を紹介しましたが、ヴェブレンはまた優れた教育者でもありました。最晩年に彼の教育論に賛同した人たちの支援で、彼はニューヨークに自分の理想とする大学を創りました。それは学位もカリキュラムの縛りもない全く自由に学生が自分の学びたいものを選ぶという大学でした。先生は本人の特性、能力等を見ながら学ぶ内容や学び方を指導し、疑問に答えてゆくという役割です。この大学は結果的にはあまりうまくゆかなかったようにです。現在ではこうした大学を創ることは日本では認められませんが、本来のあるべき高等教育の姿を示しているように思います。大学は本来は自ら学びたいことを強く持つて、自ら学ぶ場なのです。皆さんはこの大学で自分の学びたいことと自分の適正と能力を見定めながら、自身の将来の生きる道、生き方を見出していつてほしいのです。「学ぶ目的をしっかりと持つてほしい」

ということですが。

大学生活は高校生時代とは全く違い、限りなく自由です。でも自由ということは、授業に出ようが、アルバイトに行こうが、部活に出ようが、家で寝ていようがよいということですが、でも自由であるからといって学生の身分である学ぶ事をサボってはけません。生活は安きに流れれば限りがありません。自由を履き違え、だらしない生活を送らないよう自己管理をしっかり行い、メリハリのある計画的な大学生活を送ってください。そのためには4年間で何を修得するか目的をたて、それを達成する計画を作って、それに向かって日々有意義に過ごしてほしいのです。本学のある学生ですが、入学時から最難関の新潟県庁を目指し、そのため必要な公務員コースの勉強を毎日独学で修め、見事合格しました。見事な目的意識です。

授業を聞き復習することはもちろん、さらに自己研究したり、語学をマスターした

私の抱負



新入生代表

情報文化学部 情報システム学科

後藤 颯樹

膨大な情報を見極める 疑問を解決する力を学ぶ

本日は私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、数々の激励のお言葉をいただき、心から御礼申し

り、資格修得を目指したり、部活で汗を流したり、多くの選択が大学生活にはあります。目的意識を持ち、秩序ある大学生活を送ってください。

もう一つあまり入学式にはふさわしくないのですが、毎年お願いしていることがあります。学生諸君だけではなくご父母の方々にも一緒にお願いしています。それはこうして期待に胸を膨らませて入学しながら、途中で休退学する学生がいることです。経済的理由による休退学者の増加もこのところ少し目立っていますが、勉強意欲の喪失、実質は授業についていけないという理由が一番多いようです。極めて残念なことです。しかもよく伺いますと、もっと早く相談してくれば何とか休退学に至らずに済んだのというケースもあります。私としては極力こうした事態に至らぬよう大学も全力で皆さんの相談に乗って問題解決に努めたいと思いますので、どうか悩みを抱え込まず相談してください。多くの場

上げます。

現在私たちは、情報、技術、通信が日々進化するという恵まれた環境の中にいます。この恵まれた環境を生かすためには、その環境に対応していく力が必要となります。膨大な情報を正しく理解し、何が正しくて、何が間違っているのかを見極める判断力や、多くの情報を集めて整理する分析力が必要となるでしょう。この力を大学での学修の中で身に付け、将来はその力を生かして社会に貢献できる人間になりたいと思います。

さて、いよいよ大学での学修が始まります。大学では、知識だけを詰め込むのではなく、なぜ?どうして?という疑問を常に持ち、その疑問を解決するために、物事の筋道をしっかりと理解しながら学修を進めることとなります。さまざまな情報の中から、課題を見いだすためのひらめきや読解

合が自由過ぎて自分の目的が定まらず、勉強習慣が身に付かず授業についてゆけなくなり、通学しなくなるというケースが多いようです。そんな状態になり始めましたら、すぐにゼミの先生か学務課の担当者のほか、この4月から大学としても対応強化のため新しく設置いたしますキャンパスライフ支援委員会に相談してください。

ご父母の方々にも家庭でお子さんと大学生活についてお話くださるようお願いいたします。特に入学後の半年くらいの間で勉強態度が確立できるかどうかのポイントです。よく見守ってください。ゼミなど欠席が続きの場合は大学側から連絡させていただきます。不幸にして途中で家庭事情の変化で勉強の継続が難しくなった場合にも相談ください。勉強意欲を持った学生が経済的事情で学び続けられなくなることを何とか避けたいと、父母会のご尽力で一定の条件を満たすケースについては支援する制度を充実したところです。どんな事態になっ

力、課題を解決するために筋道を立てる思考力、自らの考えをほかの人に伝え、理解してもらおうための言語力や表現力が必要です。これらの力を、新潟国際情報大学の見識豊かな先生方から学び、自己を成長させていきたいと思えます。また、同じ大学で学ぶ学生は、同じ分野に興味を持ち、同じ夢に向かって学修しています。そのため、友人との何気ない会話の中にも気付きや学びがあるでしょう。互いに切磋琢磨しながら成長していく有意義な4年間にしたいです。

最後に、この入学式という晴れ舞台に立つまでに私たちを育ててくれた保護者の皆さまをはじめ、お世話になった皆さま方に感謝し、これからの大学生活では自らの目標を高く掲げ、その目標に向かって真剣に学び続けることを誓い、新入生を代表しての抱負とさせていただきます。

ても勉強意欲は持っていてください。一緒に悩み、相談に乗ってくれる人がいることを忘れないでください。

明日からの皆さんの大学生活が、このみずき野の豊かな自然の中で、充実したものとなりますよう願っています。東日本大震災から3年経過しましたが、思うように復興は進んでいません。被災のため大学生活の継続や進学を諦めた若者もいます。こうした被災者の方々の思いやる気持ちをもち、学ぶことのできる喜びを自覚してください。

本学では挨拶運動をしています。この式の後からは早速大学内ではお互い元気よく「おはようございます」「こんにちは」と挨拶しましょう。挨拶から信頼しあう人間関係が生まれると信じているからです。今日から皆さんは同じ仲間として挨拶をしましょう。颯爽とした皆さんの大学生活ぶりを楽しみにし、学長としての歓迎の挨拶といたします。

祝電

順不同

日本私立大学協会会長

大沼 淳様

新潟県知事

泉田 裕彦様

新潟市長

篠田 昭様

新潟商工会議所会頭

福田勝之様

株式会社日本ドリコム

代表取締役

山城 由紀雄様

株式会社リクルート

代表取締役

吉澤 克彦様

北関東マーケティング

代表取締役社長

野沢 慎吾様

セコム上信越株式会社

代表取締役会長

石崎 徹様

衆議院議員



在学生代表
情報文化学部 情報文化学科
大沼 竜二

4年後にどうなっていたいか 目標を立てて大いに楽しもう

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご臨席いただきました多数の保護者の皆さま、おめでとうございます。皆さんの入学を、在学生一同心から歓迎いたします。

さて、新入生の皆さんは新潟国際情報大学の学生として、これから4年間の大学生活を送ることになります。今どのようなお気持ちでしょうか。分からないことが山ほどあり、言い切れぬ不安を抱えている方もいらっしゃると思います。

しかし、大学は端的に言えば「楽しむ」場所です。勉学、研究に没頭する。友人や恋人との交遊に時間を費やす。クラブ活動に精を出す。教授やさまざまな大人たちとの関わりを広げる。自分で大学の外から楽しむものを見つけてくるのもいいと思います。そういった「楽しむ心」をこの大学生活でモノにし、社会に出てからはもちろん、これからの生涯で持ち続けてほしいと私は思います。ですから皆さん、今からでも構いません。「大学生活を楽しむぞ」という気概でどうか臨んでみてください。

ただし、目標も立てずただ楽しいことだけを追い求め、やらなければならないことをないがしろにしてはいけません。また、人に迷惑をかけてはいけません。いうまでもありません。自分はこの大学生活の最後にどうなっていたいか、それまでにやらなければならないことは何かを把握し、行動に移した上で思いっきり楽しんでください。悔いの無い4年間を送れると思います。

前置きが長くなりましたが、これから大学生活を送る上で大切なことを二つ、新入生の皆さんにお伝えしたいと思います。

一つは、「自分から考え自分から行動すること」です。高校までと違い、大学生には自分で決めなければいけない物事が多くあります。また、与えられている時間も膨大です。要するに、自由です。自由の中では選択肢があまりにも多いので、自発的な思考、行動に迫られると思います。ところがこの選択肢が多いことに気付かないまま、大学生活を送る人が意外と大勢います。ぜひこの言葉を常に念頭に置いておくください。そして特に、大学の外へ積極的に行動の幅を広げることをお勧めします。

もう一つは「人との関わり、つながりを広げること」です。皆さんが困難に当たったときや、何か協力をしてほしいとき、誰かとつながっていれば必ず助けてくれる人が現れます。また人との関わりは常に自分に何かをもたらします。いいことばかりではありませんが、最後に自分を成長させてくれるのは人との関わり、つながりです。私がこの大学に入学した時、自分と同じ高校から来た学生は同学年に一人もいませんでした。周りは知らない人ばかり。不安と

恐怖にさいなまれ、これから4年間の大学生活を送ることなど、全く想像できませんでした。あれから3年たち、交遊も増え、あの時慣れない環境に苦悶していた自分も今ではいい思い出になっています。それらはすべて人とのつながりがあったおかげです。

大学生活の最初は、私も経験しましたが人間関係を広げようとしてもなかなかうまくいかないと思います。ただ、一番手っ取り早い方法があるのでお教えします。クラブ活動に参加することです。先ほど「大学生活は自由」と言いましたので本当はあまり言えないのですが、これだけは一番強くお勧めいたします。どのクラブでも構いません。いくつでも構いません。今、皆さんがこの入学式を終え外に出れば在学生が皆さんを自分のクラブに引き入れようと待ち構えています。この大学には公式のものだけでなく50近くのクラブ団体があります。ぜひ同じことに興味がある仲間たちと関わりを持つてください。そして、そこからさらに輪を広げていってください。

これから先、大学生活を送っていけばさまざまなもの、出来事、人に出会います。間違いを犯してしまうことや、人を傷つけてしまうこともあると思います。苦しいことも多くあります。それでも決してそれらから目を背けず、全てをひとつ残らず吸収し自分自身の成長の糧としてください。そして、自分だけの大学生活をつくり上げていってください。

皆さんの入学を心から祝福し、これからの大学生活が充実したものになることを願って、歓迎の言葉とさせていただきます。

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員 内田 亨

本学には本校みずき野キャンパス（越後赤塚）と新潟中央キャンパス（古町）がある。両キャンパス間（約20km）をゼミの学生と歩いた。その目的は、災害時の帰宅困難の予行演習と忍耐力・団結力の醸成である。有志は、3年生と2年生の総勢6名。2年生が企画書作成から当日のナビゲーションまで行った。3月とはいえ、最高気温3℃最低気温氷点下1℃で、晴れ後曇り時々雪の天気だった。

スタートは、サブゼミ終了後の昼過ぎ。事務局長、学務課長の見送りがあり、学長から鉛缶の差し入れも頂いた。こんなに激励してくれるとは思ってもおらず、一同気合が入った。内野西が丘駅までは、主に未舗装の道中だが、思ったより快適であった。

内野では、秋祭りのコラボの打ち合わせで、専門学校に寄った。その後、まもなく雪が降ってきた。風も吹き、体感温度は完全に氷点下である。しかし、一生懸命歩いているためか、寒さは感じない。学務課には安全確認のため、道中の写真を定期的に送った。その写真を学務課がツイッターでアップロードしたため、それらを見ることで、みんな励まされた。予定していた信濃川の土手道は、一部工事中で通行不可であった。学生は、机上の企画書と実際のギャップを感じ、理想と現実の相違を学んだ。

新潟中央キャンパスに到着したのは19時で、見事全員ゴールした。職員から手製の月桂冠や金メダルを学生に授けてもらった。『ワークキング・ラボこくじょう』でお互いの健闘や反省を分かち合っけて解散した。筆者は、この3月で奉職2年になるが、今回、真面目で粘り強い学生や職員の温かい支援を肌で感じ、本当に良い大学に縁あることができて、大変良かったとあらためて思う。

両学部の新たな歴史を築こう

情報文化学部長



白井 健二

本学は、今年度から2学部としてスタートしました。

新しい情報文化学部は、開学以来の「情報システム学」をカリキュラムの基本としています。社会の変化に伴い、昨年度は1年から4年まで担任に相当する教員をクラスに配置しました。1、2年生は

国際学部長



佐々木 寛

ようこそ、新潟国際情報大学へ。皆さんを心から歓迎します。

皆さんは、新生「国際学部」の第一期生となります。これ

新入生の皆さんへ

基礎演習と情報システム演習を、3、4年生は卒業研究へとつながります。今年度は、さらなるカリキュラム改訂を実施します。1年次後期にはPBL(Project Based Learning)を導入し、5人に1台Tab

昨年度は、カナダ短期留学に23人が参加しました。カナダから帰国後は、将来の進むべき方向も明確になっております。今後も引き続き海外への留学を進めて行きたいと考えております。

境や人間活動に深く関わる社会的なシステムである」という広い捉え方をしておりま

一方、経営コースは、将来の企業経営者、特に新潟で活躍できる経営者や新しいビジネスに挑戦できる人材、情報システムを活用して経営のできる人材、自分で起業できる人材の育成を目指しております。あるいは、人間と社会に

グローバル社会を生き抜く力

Letを貸与してIT教育を実施します。また、大幅な科目の統廃合を実施します。「情報システム学」を堅持しながら、グローバル化に対応できるカリキュラム体系を進めていきます。

情報システムとは「社会または個人の活動に必要な情報の収集・蓄積・処理(加工)・伝達・利用に関わる仕組みであり、単にコンピュータを中心にした技術的なシステムを示すものではなくて、社会環

る人材を育成する。また、情報システムを構築するための情報技術(含むプログラミング)とネットワークに関する知識を修得し、情報システムを創造できる人材を育成することを目指しております。

このように情報文化学部は、グローバル社会を生き抜く人材を育成する新しい学部となりました。

からの「国際学部」の新しい伝統を一緒につくっていきましよう。皆さんのこれからの想いや行動が、「国際学部」の歴史をつくっていきます。今、皆さんにお願いしたいことは、これまでの自分を

す。小学生の頃を持っていたけど、いつの間にかあきらめてしまった夢や、受験勉強などで忘れてしまった未来のイメージをまた思い出してほしいと思います。多くの若者は、自分の限界

あらかじめ決めつけをせず、出合ったものには何にでも興味を持ち、これまでの囚われから自由になっていく本当の喜びを体験してください。自分よりはるかに大きなものと出会い、自分が変わるこ

さんの夢や可能性を実現するためのたくさんのきっかけが用意されています。しかし、それらのきっかけは、あくまでも「用意されて」いるだけなので、ただ受け身でいるだけでは、何も得ることはできないでしょう。「迷ったらや

可能性を大きく開花させよう

ったんリセットして、未来に向かって新しい希望を持っていただきたいということ

を自分で決めてしまうことで、本当に小さくなってしまいます。皆さんには、それぞれ皆さんが思うよりも大きな可能性が眠っています。大学はその可能性に気づき、それを最大化させることです。

新生の「国際学部」には、少人数のゼミナール、各種の海外留学、実際に「先生」になって小中高等学校に出かけていく国際交流インストラクター、各種サークル活動やボランティア活動など、皆

皆さんがそれぞれのまったく「新しい自分」を発見していく作業の中で、これからの「国際学部」の伝統も一つ一つ築き上げられていくと思

学内合同企業説明会



3年次生を対象とした学内合同企業説明会が2月4、5日の両日、本校みずき野キャンパス体育館で

開催されました。平成27年3月卒業予定の就職活動が本格化している最中であり、企業の人事担当者などから直接情報を聞ける機会に、240人を超す学生が参加して真剣に取り組んでいました。

安倍政権の経済政策もあり企業の景況感

貴重な情報 就活に弾み

向上きで、4年制大学の採用も回復傾向となつて期待されます。すでに来春の採用を増やす予定の企業も多くなつており、この度の本学恒例の合同企業説明会には県内外から208社の企業、団体に参

活に臨むスタートとなりました。重要な時間を過ごすことができた。経済環境の好転が期待されていますが、学生にとって「厳選採用」が続くなか、就職戦線の厳しさは変わらず、新たな気持ちで就

景況に期待 208社が参加

この祭典は、青少年が自分自身で実験や工作を体験し、科学の面白さを感じて

長岡市のアオーレ長岡で2月1、2日の両日に開催された「青少年のための科学の祭典」新潟県大会に、本学情報システム学科の近藤進教授と同研究室の学生4人がブースを出展しました。

青少年のための科学の祭典

もろうために平成4年から始まったイベントです。今回の県大会には、2日間で1万人超の入場者がありました。同研究室では「光受信機を作つてリモコンの光を聞いてみよう!!」というタイトルで展示をしました。出展ブースでは半田付けをしないで回路を組めるブレッ

光通信の不思議に歓声



ドボードを使って、光送信機、光受信機を製作する体験を行

近藤研究室が出展

いました。来場者は、簡単な電子工作を楽しみ、家庭用赤外線リモコンの見えない光が、デジタル音になると歓声を上げていました。また、ペアでの来場者は送信機も製作。音声信号が電気や光になり、また音声に戻る実験をして、光通信の原理を易しく学びました。

サークル紹介

Q&A

Q. どんな大会に参加していますか？

A. いろいろなジャンルのダンスを楽しんでいます。部員は9人で、主将の松澤柊美さん(情報文化学科3年)に聞き

Q. 活動状況を教えてください。A. 週3回、大学のAトレニング室で先輩方やOBの方に教えていただきながら練習を行っています。いくつかのジャンルのダンスがあり、自分のやりたいダンスをすることができま

いろんなジャンルを楽しむ

Q. あなたにとって、ダンス部とは？ A. 気の合う仲間と、熱中してダンスができる大好きな場所です。ダンスを通して多くの人と関わらせていただいたり、ダンス部に入部したらこそ経験することがたくさんあります。

Q. 入部のきっかけは何ですか？ A. 元々ダンスをしたいと思っていたのと、先輩方のかっこいい姿を見て入部を決めました。部員全員が初心者でしたが、基礎からしっかり教えていただけたら、お互いに高め合うことができる環境です。

Q. ダンス部を一言でアピールしてください。 A. 個性あふれる私たちと一緒にダンスをして、大学生生活を充実させませんか？ 初心者大歓迎です！ イベントへの参加、いろいろな人との交流、とにかく楽しい毎日になると思います。



か。学内では紅羽祭や、不定期ですが学内ショーを行っています。また、新潟大学などの他大学が主催する学生のダンスイベントや、クラブイベントのショーケース、バトルなどに各々参加しています。

「学生企画プロジェクト」に期待

「被災地を忘れない」ために

ボランティアツアーなどを展開

開学20周年記念事業の一つとして、本学の建学理念「国際化・情報化に対応で、被災地域でのボランティア活動や学内外での広報活動を行ってききました。学外

本学の卒業、在学生の事業をサポート

「起業支援プロジェクト」決定

諸橋さん（情報システム学科 平成23年卒）の「IT関連企業に

「つなぐプロジェクト」東日本大震災被災地域と新潟とのかけはしを目指して」（代表・梁川成美さん・情報文化学科4年）が採択されました。

開学20周年記念

「国際交流フェア」を開催



開学20周年を記念した「国際交流フェア」が2月16日、新潟中央キャンパスで開催されました。本学の留学体験や学生による民族衣装ショー、外国語教育の授業体験などが行われ、高校生など約180人が会場を訪れて楽しんでいました。

留学体験を発表 民族衣装の披露も

国際交流インストラクター体験が行われ、参加した高校生たちが真剣に取り組んでいました。

高校生らCEP授業を体験

のコースの代表が、貴重な体験や失敗談を披露しました。続けて、留学参加者から、写真や映像を用いた留学先の紹介、趣向を凝らしたダンス、ファッションショー、民族楽器の演奏が発表されました。また、留学経験者である上級生による各言語でのスピーチやプレゼンテーションも行われました。

山元町・南三陸町のテーマが中心。町、福島県相馬市）の実施

波の爪痕が残っている場所もあれば、その中で前向きに、そして、笑顔を忘れず暮らしている人たちがいます。そんな被災地の「今」を、より多くの人に知ってもらうために、いただいた機会を無駄にしないよう、精いっぱい尽力させていただきます」

開学20周年記念事業の一つ、本学の卒業生や在学生の起業を支援するプロジェクトが発足しました。厳正されたベンチャー企業や起業準備中の事業活動を審査で初回の支援企業に諸橋弘幸さん（平成23年3月卒業）の「IT関連企業（株）プラ間無償で提供するものでスクリエイティブ」（仮称）です。

学施設内での活動にふさわしい事業内容であること。提供フロアには独立したセキュリティーシステムが設置され休日深夜も出入り可能。共益費の一部は自己負担。支援期間は1年更新で最長3年間となっています。

会社設立から3年以内の企業、起業・会社設立を目標としている事業計画で、本

OPEN CAMPUS 2014

オープンキャンパス

1回目

7/20

AM10:30~PM3:30

2回目

8/3

AM10:30~PM3:30

3回目

9/7

AM10:30~PM2:00

会場 新潟国際情報大学 本校

新潟市西区みずぎ野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

7・8月無料送迎バス運行

お問い合わせ先 新潟国際情報大学 入試・広報課

〒950-2292 新潟市西区みずぎ野3-1-1 TEL025-264-3777(直) FAX025-264-3780

【参加お申込み】高校の進路指導の先生、もしくは右記までお申込みください。 ※時間や変更となる場合もありますので事前に確認ください。

高校生はじめ どなたでもご参加できます!

- 学部およびカリキュラム説明
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- 語学体験
- 個別入試相談
- 個別就職相談
- 海外留学相談
- 学生との懇談
- 学内見学
- 保護者向けプログラム

濃密な日々 一生の宝物

眼を輝かせ派遣留学・海外セミナー帰国報告会



アメリカコース
情報文化学科
山崎 祥基

さまざまな異文化経験 勉強以上に大切なもの

私はアメリカで生活する際に、着いた時、不安を感じました。アメリカでの生活で友人ができたのかどうか、また私の英語力は向上するのかわかりませんでした。不安とは裏腹に、多くの友人をつくることができ、英語力を伸ばすことができました。これは多くの友好的な人々、素晴らしい先生方がノースウェスト・ミズーリ州立大学にいたからです。そのため、私の不安も取り除くことができました。

私はさまざまな経験をするのができました。アメリカンフットボールの試合、パレード、ミ



アメリカ

ュージカルを観たり、ジャズコンサートを聴いたりしました。またダンスパーティーやハロウィンのイベントに参加したりもしました。

私は今回の留学で、多くの友人をつくることができました。

さらに、親友と呼べる友人もできました。名前はサンディブといい、ネパール出身の学生です。私が彼と友達になってからはほぼ毎日話をしました。彼とは今でも時々チャットをしたり、スカイプを使って電話をしたりと連絡を取り合っています。私は、この留学で勉強以上に大切なものを得ることができたと思います。

最後に、私はアメリカにもう一度行きたいのはもちろん、親友のサンディブに会いにネパールにも行きたいと思っています。そのため、私はこれから英語を一生懸命勉強していくつもりです。



ロシア



ロシアコース
情報文化学科
長橋 優太

百聞は一見にしかず 話す度胸が身に付いた

私たちロシア語コースは、5人という少人数ですが、8月10日から約4カ月間、ロシアのウラジオストクにある、極東連邦大学へ留学してきました。この留学に行くかどうかは直前までずっと決めかねていたし、行く決心をしてからも現地での生活やそれに伴う会話など、不安は尽きませんでした。今では行つてよかったと思っています。

皆さんは、ロシアと聞いて何を思い浮かべるでしょうか。マトリョーシカ、プーチン、ウォッカ、帽子、隕石などさまざまなイメージがありますが、多くの日本人にとってロシアはあまりなじみがなく「よく分からない国」と思っている人も多いのではないかと思います。

私も行く前は、治安が良くないことを聞いていたし「暗くて危険で汚い」というイメージがありました。確かに、夜に出歩いたら危ないという話はよく聞きますし、飲んだくれに絡まれたこともありました。しかし、百聞は一見にしかず。それ以上に人々は温かく、道を聞けば言葉もろくに通じないアジア人に對しても親切に教えてくれたりと無愛想だけど気のいい人が多いのです。

ロシアでの生活は、快適なものばかりではありませんでした。たとえば、スーパーで「つり銭がないからもっと細かいお金を出せ」と言われたり、10月の半ばあたりまで寮のシャワーからお湯が出なかったりなど、日本では考えられないようなこともありました。

授業では、はじめは先生が何を言っているのか全く分からず、一語一語辞書で調べるところから始めました。しかし、先生が分かるまで説明してくれたこともあり、それほど苦にはなりませんでした。また、先生とは授業だけでなく、カフェや美術館、市内観光などに行ったこともありました。先生には、感謝してもしきれません。

まだ私のロシア語は未熟ですが、留学で身に付いたこととして最も大きいものは、ロシア語能力ではなく、自分の話す言葉がロクに通じない中で意思疎通を図ろうとすることだったり、自信のない言葉だったたりして、話す度胸だったと思います。

この留学を通して、日本に居たままではなかったような体験をし、さまざまな人と出会うことができました。最後に、素敵な4カ月をありがとうございました。



中国コース
情報文化学科
渡邊 大輔

自分の目で確かめて 相手の国の理解深める

9月から約4カ月間、在学した大学は北京市内にある北京師

範大学というところです。中国到着当時は見るものや学ぶことが新鮮で毎日が楽しく、濃密だったため一日が長く感じられました。が、帰国した現在は4カ月という時間はあっという間で、とても短く感じています。

私が留学を決心した一番の大きな理由は、中国とはどういう国、中国人はどういう人だろうということを知りたいという好奇心から尖閣諸島領有問題などを機に日中関係が悪化し、中国国内で反日デモが発生しました。日本人の中国に対するイメージは悪い方向へ向かい、一年が経過した今も日中関係は良いとはいえません。他にも連日報道されたPM2.5による大気汚染や、首相の靖国神社参拝による日中関係が悪化しているのが現状です。私も行く前は中国に対してあまり良いイメージはなく、治安の心配がありました。

両親や親戚も中国は気を付けた方がいい、行かない方がいいと言っていました。しかし、私はその時、自分の目で確かめせず、TVや新聞の情報だけで判断して良いのかと思っていました。少ない情報だけで中国という国、中国人を決めるべきではないと思います。

実際に中国へ行き、私が接してきた中国人の友人はみな親切で何事にも熱心な方ばかりでした。むこうで日本語を学んでいる学生とも交流をし、お互いに言語を教え合い相互学習をしました。単語の意味や文章内容など私が分からないところなどを丁寧に教えてもらいました。とても感謝しており、その友人の

異文化に触れ成長を実感

韓国コース



情報文化学科
小柳 唯人

人の優しさに触れて 外交関係の不安が消えた

私は8月30日から約4カ月間、韓国の慶熙(キョンヒ)大学に留学してきました。私が韓国に留学する前に日韓の外交関係がとても悪くなり、教授や家族

のおかげで私の中国語は上達しました。また、現在の日中関係についても互いの意見を話し合いました。決して中国人だからといって悪い人ではないです。現在、本学の中国語履修者数は減少しており、その要因として日中関係の悪化が挙げられると思います。しかし、みなさんがイメージする中国は真実ではないと思います。私は留学で体験したこと、中国の印象や思ったことなどを先輩や友人、家族などに伝えていきたいです。

また、他にも学んだことがあります。まずは友人の大切さです。中国留学組は10人で行き、みんなでも多くのことを体験してきました。最初、仲はあまり良くなかつた4カ月生活できるのかという不安がありました。でも、一緒に生活していると今まで知らなかった友人の優しい一面や気を遣ってくれる面を見ることができ、感謝ばかりでした。お互いに協力し合い、留学を大切な友人と一緒に過ごすことができました。自分の一生の宝物になりました。

私が出会った方はみんな気さくで親しみやすい方ばかりで、これは、私個人が感じた事です。韓国という場所は皆さんが騒がれているほど危険ではなく、優しく親切な方も多い場所ということをまず知って欲しいです。

私は韓国へ留学する前、韓国語は好きではありませんでした。特に韓国やK・POPに興味がある訳でもなく、留学費用がほかの留学場所と比べて比較的に安く、韓国ファッションに少し興味があったからで、最初は韓国語の勉強が辛かったです。しかし、留学をきっかけに語



中国

学を学ぶ楽しさを覚えました。韓国語を使わなければ何もできないという状況下で、毎日韓国語に携わっていると自然と単語を覚えたり、少しずつですが語学力が身に付いてきていることを実感したりと、この留学が語学を学ぶ楽しさを知るきっかけになりました。

留学を通して感じたのは、現地の人と直接話してコミュニケーションを取るのが語学力の向上に一番大切ということ。私は韓国で出会った韓国人やアメリカ人の友達と一緒にストリートスナップやサッカーをしていました。まさか韓国で自分の趣味である写真やサッカーに関われると思っていなかったのです。今思えば、奇跡的な出会いだったと思います。友人たちのおかげでとても充実した留学生活を送ることができて感謝しています。



韓国

このように、現地の人とコミュニケーションを取ることで言葉の壁を感じて辛くなった時もありましたが、みんな丁寧に韓

カナダコース



情報システム学科
曾我 絵美花

日常と違う未知の環境で 自分自身を見つめ直した

昨年の8月6日から5週間、カナダのアルバータ州エドモントンにあるアルバータ州立大学への短期留学コースに参加してきました。留学を決めた動機は、異文化に触れ、自身の成長を促したいと思ったからです。日常と違う知らない環境に自分を投じ、自身をあらためて見つめ直す良いきっかけと考えたからです。国外に出ることによって、

その国の文化を学ぶと同時に、外から見た日本を違う視点から見たいと思ったからです。英語の授業は10人くらいのクラスで行われました。最初は本当にこのクラスにいてもいいのかわ不安を覚えるほど授業についていけませんでした。自分の能力のなさにかなり落ち込みました。しかし積極的にクラスの人と交流して、徐々に打ち解けていきました。簡単な英語でもコミュニケーションが取ればいいのです。お互いに英語を勉強している身なので一生懸命話そうと頑張りました。年齢も出身もさまざまな人たちが参加しているので多くの文化に触れることができました。



カナダ



雪 空

情報センター棟を快適に

県内大学で初めて導入

本学情報センター棟 促進事業の助成を受け、
(コンピュータ室)を快適にする雪冷房施設(雪室)が本校みずき野キャンパスに
完成し、
2月6日
に完成見学会が開かれまし
た。この
事業は、一般社団法人新
エネルギー導入促進協議
会による平成25年地域再
生可能エネルギー熱導入
に切り替え
て空調を行
っています
が、コンピ
ュータ室では
使用機器の
放熱で室内
温度が上がる
ために、
暖房時期で
も冷房が必要
になっていま
いました。
そのため空

この雪冷房施設を導入
すること
で、中央
熱源が冷
房運転と
なってい
ない中間
期(4月
(6月)に雪室の雪解け
水をパイプで教室に循環
させ、約360台のコン
ピュータが設置されてい
る9教室を冷房すること
ができます。パッケージ
エアコンを停止すること
が可能となり、CO2の
削減量は年間約1万10
00kg、空調コストは35
%以上の削減を見込んで
います。

雪室は約300平方メ
ートル、660トンの雪
を貯蔵できます。平均的
な降雪量があれば、大学
敷地内の駐車場から十分
な雪を確保できる見込み
です。
本学ではこの
雪冷房施設をき
つかけに、省エネ
ルギー化や省資
源化に向けた取
り組みをさらに
進めていきま
す。

NUISSを去るにあたって



情報文化学科・准教授
松尾 瑞穂

このたび、201
0年4月から4年間
勤めた本学を離れ、
新たな職場に異動す
ることとなりました。
た。ちょうどこの3
月で卒業する4年生
の皆さんの入学とと
もに本学に赴任して
同じ時間を過ごし、
一緒に離れることと
なります。国際学部
の新設を前に、NU
ISを離れることと
なってしまう、私自
身も大変残念に思っ
ておけ、ご迷惑をお
かけすることをお詫
言います。
私にとってNUI
Sで過ごした4年間
は、教職員や学生の
皆さんにも支えられ
て、試行錯誤しながら
も、大変充実した
幸せな時間となりま
した。全ての授業や
ゼミが思い出深いも
のですが、特に私が
隔年で担当していた
社会調査演習1・2
では、受講生全員で
新潟県粟島浦村や十
日町市で調査合宿を
行い、報告書をまと
めるといふ作業を行

共に学んで次のステージへ

い、私にとっても新
潟という場所をあら
ためて知る、大変興
味深い経験となりま
した。
学生時代は、本
に体力、時間ともに
恵まれた人生の黄金
時代です。とはいえ、
あまりに学生時代を
称揚し過ぎると、社
会人になつたらそん
なに辛い人生が待っ
ているのか？と悲観
してしまうかもしれ
ませんが、そういう
わけではありませ
ん。大人には大人の
楽しみと味わいがあ
り、それは若い時分
にはなかなか経験す
ることはできないも
のです。だからこそ、
今、その時にしかで
きないことを自分な
りに目いっぱい経験
し、次のステージへ
と進んでいただきた
いと思います。
共に学んだ学生の
皆さん、お世話にな
った教職員の皆さん、
本当にありがとうございました。
さるなる発展と、卒
業生、在学生のみな
さんのご活躍を祈念
いたします。

(新年度から大学共
同利用機関法人・人間
文化研究機構「国立民
族学博物館」へ。通称
「みんぱく」。大阪府
吹田市千里万博公園)

- における内発性・土着性・自立性の基礎的研究(京都女子大学)
- ・(2013年11月11日~2014年2月10日)「新たな『核の時代』を生かすために——『3・11』後 新潟から考える」にいかた市民大学後期ゼミナール全8回(新潟市)
- ・(2013年12月6日)講演「大学へ行こう！——人生を真剣に考える人へ」(三条高等学校)
- ・(2013年12月8日)コーディネーター「〈開戦前夜〉の国で。——集団的自衛権・秘密保護法を考える」市民文化フォーラム(大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウス)
- ・(2013年12月19日)講演「ネット社会に生きる子どもたちを守るために——<人権>の観点から」平成25年度人権啓発活動地方委託事業(黒崎地区公民館)
- ・(2013年12月27日)調査報告「イラク・アルビル調査報告」(日本国際ボランティアセンター事務局)
- ・(2014年1月15日~3月12日)「戦争映画から考える<愛>——現代人の憂鬱と希望」エクステンションセンター・オープンカレッジ全5回(本学新潟中央キャンパス)
- ・(2014年1月21日)講演「<人権>のゆくえ」アムネスティインターナショナル日本新潟グループ(クロスバルにいかた)
- ・(2014年2月8日)講演「『新しい社会』の条件」社民党県連合・県平和センター(新潟会館)

谷本 和明(情報システム学科・教授)

- ・(2013年11月6日)「新潟における海洋エネルギーの研究」新潟県海洋エネルギー研究会 設立総会(新潟県)
- ・(2014年2月18日)「新潟県粟島における海洋発電と実証フィールド」美しい日本の洋上風力発電のためのシンポジウム(東京大学)

藤田 晴啓(情報システム学科・教授)

- ・(2014年2月5日)「環境負荷値の可視化および食品付加価値認証——ポゴール市および新潟市での社会プロジェクト」国際ワークショップ：社会のイノベーションを誘発する情報システム、人間中心のサイバーフィジカル融合社会(国立情報学研究所)

- ・(2014年2月7日)「羽茂小泊における集落調査と交流」大学生の力による集落活性化事業平成25年度報告会(新潟県地域振興課)
- ・(2014年2月13~14日)招待講演、およびモバイルアプリケーションデモンストレーション「Waste Cooking Oil Recycle Project in Kota Bogor」(SMA1, SMA3, SMPGR4, Bogor, Indonesia)
- ・(2014年2月17日)「Social project of waste cooking oil, a proposal for a joint partnership between Indonesia and Japan」(Center for Agro-Based Industry, Indonesia)
- ・(2014年3月1日)「マチュ・ピチュ遺跡の概況と成因」公開シンポジウム：マチュ・ピチュ遺跡保存修復国際協力プロジェクト(本学新潟中央キャンパス)

アレクサンドル ブラール(国際文化学科・教授)

- ・(2013年12月)「教育改革と教員の社会ステータスについて——日本とロシアを比較して——」(極東連邦大学、ロシア)

3)委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(情報システム学科・教授)

- ・(2013年より継続)新潟市西区自治協議会第3部会副部長
- ・(2014年3月11日)新潟県農業共済組合連合会平成25年度第2回コンプライアンス委員会(NOSAI新潟)

小宮山 智志(情報システム学科・准教授)

- ・(2014年~)赤塚郷ゆかりの文人展実行委員会委員
- ・(継続)佐渡観光プロジェクトチーム

谷本 和明(情報システム学科・教授)

- ・(2013年より継続)新潟県海洋エネルギー研究会会長

学生食堂リニューアル

本校・みずき野キャンパス1階の学生食堂「弥彦」が全面的にリニューアルされました。座席や調理場のレイアウトが一新され、さまざまなイベントにも対応できる、と

気の学食になりました。

9月の完全リニューアル時には、座席数が100席増えて500席となります。また、合わせて9月に

9月には学生会館に直結メニューもグレードアップ



新設される学生会館とも直結される予定で、単なる学生食堂を超えた、多様な学生ニーズに応えた施設となります。

今回のリニューアルに併せ、メニューもグレードアップ。日替わり定食をはじめ、カレー、ラーメンなど、手作りにこだわったメニューを豊富に用意しています。また、以前から要望のあった、ちよつとだけおかけが欲しい場合にお勧めの小鉢メニューも新たに登場！管理栄養士監修のもと、不規則となりがちな学生の食生活をサポートする、価格の安さはもちろん、ボリュームが多く栄養バランスも良いメニュー構成で、キャンパスライフを食事面からも支えます。

また、今回から新たに食券購入にプリペイドカード方式が採用され、現金でのやり取りが無くなり便利となりました。学生に限らず、卒業生、一般の方も新しくなった学生食堂をどうぞお気軽にご利用ください。

新大工学部とも単位互換協定

新潟大学工学部と本学情報文化学部との間で2月18日、単位互換協定が締結され、今年度4月1日から実施されることになりました。

これまでも新潟大学とは、人文学部および経済

学部との間で単位互換が実施されていますが、今回事業的に支援できることになり、工学部との間で実施されることになりました。また、本学には大学院で専門力の補強のため、進学を希望する学生が新

潟大学大学院に進学した際には、研究活動をより積極的に支援できることとなります。大学間交流と専門力の補強のため、ぜひとも活用してください。

人文、経済両学部へ一層の交流を



教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

内田 亨(情報システム学科・教授)

・(2013年)「地域の中小企業とそれを取り巻くステークホルダーによる地域ブランド構築のメカニズム」地域デザイン学会誌地域デザイン 2 (論文6)

佐々木 寛(国際文化学科・教授)

・(2014年) 編著『平和を考えるための100冊＋α』法律文化社

白井 健二(情報システム学科・教授)

・(2014年) "Propagation of Working-Time Delay in Production", International Journal of Innovative Computing, Information and Control 10, 169-182

谷本 和明(情報システム学科・教授)

・(2013年) "High-speed Emulation Model for a Hybrid DC/AC Microgrids with Renewable Energy Sources", IEEE ICRERA.
・(2014年) 「小規模再生可能エネルギーの現状と可能性」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第17号

近山 英輔(情報システム学科・准教授)

・(2014年) "Solvable Model for Chemical Oscillations", Journal of Mathematical Chemistry 52, 399-406.

アレクサンドル プラーソル(国際文化学科・教授)

・(2013年) "Military-Political Organization and Social Structure of 16th Century Japan", Gumanitarnye Issledovaniya Sibiri i Dal'nego Vostoka 5, 60-71.

2) 学会・研究会・講演等

越智 敏夫(国際文化学科・教授)

・(2013年12月9日) 講演「政治再考：市民とは誰か？」新潟市選挙管理委員会（新潟市役所）

小宮山 智志(情報システム学科・准教授)

・(2014年3月26日) 講演「地域活性化における大学生の役割と次世代育成における地域の役割」新潟市西区役所・西区連合商工会（新潟国際情報大学）

佐々木 桐子(情報システム学科・准教授)

・(2013年12月8日) 「災害とJIT ～自動車産業のサプライチェーンへの影響～」日本経営システム学会（広島経済大学）

佐々木 寛(国際文化学科・教授)

・(2013年10月11日) 講演「平和学から考える沖縄」新潟日報社連携講座：異文化塾（本学新潟中央キャンパス）
・(2013年9月21日) 講演「思いやり・優しさから権利の主体へ」坂井輪地区公民館人権講座（坂井輪地区公民館）
・(2013年10月24～27日) 大会実行委員長、および部会討論者：日本国際政治学会2013年度研究大会（新潟コンベンションセンター）
・(2013年11月6日) 「平和学から考える沖縄」写真展「命どう宝、海よ、森よ、暮らしを」実行委員会主催（万代市民会館）
・(2013年11月10日) 司会「平和学の方法と安全保障研究の方法」日本平和学会分科会（明治学院大学）
・(2013年11月16日) 講演「子どもの人権を考える——グローバルな視点から」（万代市民会館）
・(2014年3月2日) 「平和研究と国際政治学の間——高柳先男」科研費基盤研究C：国際関係論

新潟国際情報大学に入
学して5年。あつという
間に時が過ぎて行ったよ
うに感じます。

もともと英語が好きだ
った私は、留学したいと
いう理由からこの大学に
入学しまし

た。大学2年
次に留学制度
を通して行っ
たノースウェ
スト・ミズー
リ州立大学で
の約4カ月の
経験が、私の大学生活、
また人生を変える大きな
きっかけになったように
思います。

のとき本気で頑張ったか
らこそ、今、その努力が
身につけているのだと感
じています。そしてこの
留学をきっかけに、さら
に個人で約1年間、カリ
フォルニアの大学に留学
のとき本気で頑張ったか
らこそ、今、その努力が
身につけているのだと感
じています。そしてこの
留学をきっかけに、さら
に個人で約1年間、カリ
フォルニアの大学に留学

「自分」を変えた留学経験

情報文化学科 和平 優子

きつとそんな発見も、こ
の大学に入らなければ、
気づくことはなかったと
思います。

2回の留学をサポート
してくれた母、また相談
してくれた先生方、
どんな道を選
んでも理解し
て後押しして
くれたすてき
な仲間たち、
全ての人々に
感謝していま
す。

大学に入学してからの
4年間はあつという間で
した。新しい環境、新し
い友人に最初は戸惑いま
したが、だんだんと慣れ
て仲の良い友人もできま
した。

入学した際
に最低限の目
標として、「提
出物は期限の
3日前までに
提出する」と
いう目標を立
てました。普段は意識を
しなくても3日前までに
終わりましたが、レポー
トが重なった時期は計画
を立てて進めるというこ
との重要性を実感しまし

「計画的に進める」を实践

情報システム学科 畑山 彩花

た。

この目標を就職活動に
も生かし、履歴書に追わ
れる忙しい時期をなんと
か諦めることなく乗り切
ることができました。

きたのは、自分にとつて
大きく、今後にも役立て
ていくことができると思
います。

もっと積極的にサーク
ル活動をすればよかつ
た、もっと旅
行に行けばよ
かつたなどと
の悔いも残り
ますが、とて
も充実した4
年間でした。

大学生活で
学んだことを忘れずこれ
からも頑張っていきたい
と思います。お世話にな
った皆さん、本当にあり
がとうございました。

私は中学時代からの夢
であったアメリカ留学の
ため本学に入学しまし
た。当初は留学以外に目
標だと感じられるものも
なく、卒業後の展望も大
学に行きさえすれば自ず
と開けてくる
ものと期待し
ていました。

うようになり、「寺子屋
つばさ100km徒歩の
旅」に出会うことになり
ます。私はその学生スタ
ッフに挑戦しました。8
月に4泊5日かけて小学
生と真夏の100kmを歩
き抜くという過酷な旅で
す。5月からは毎週研修
で、辛いこともありまし
た。しかし、同世代の仲
間と同じ思いを分かち合
えたこと、5日間全力で
子どもたちと向き合った

「やり抜いたぞ!」と実感

情報文化学科 高井 あゆみ

こと、ゴールでは涙が止
まらなかつたことなど、
大学だけでは絶対に得ら
れなかつた経験を通じ
て、新しい自分と出会う
ことができました。私が
求めていた「やり抜いた
ぞ!」という
実感は、この
100kmにあ
りました。こ
こで学んだこ
とは、全てに
おいて私の原
動力になつて
います。

留学も100kmも実体
験がいろいろなることを気
づかせてくれました。社
会人になつても、これら
を生かしていきたいと思
っています。

大学生活を振り返って
みると、長いようで、と
ても短かつた4年間でし
た。1、2年生の頃は、
毎日の授業と忙しいアル
バイトの両立に必死で、
もつと思ひ出
に残るような
ことをすれば
よかった、と
いう後悔があ
ります。

3年生にな
り、趣味に使
える自由時間が増えまし
た。楽器のベースを購入
し、それをきっかけに、
友達誘いで軽音楽部に
入部しました。入部早々、
学園祭のライブに出るこ

ライブで得た二生の宝物

情報システム学科 石川 碧唯

とになり、学園祭までの
約1カ月半、本気で練習
しました。

ライブでの成功と失
敗緊張と達成感。これら
は今でも覚えていいます。

思い出になりました。後
輩の皆からのプレゼント
も一生の宝物です。3年
生になってから入部した
新入りへ、分け隔てなく、
そして仲良く接してくれ
てありがと
う!

在学生の皆
さん、社会人
になると自由
時間が激減す
ると聞いてい
ます。4年間
の大学生活を悔いなく過
ごすために、今しかでき
ないこと、それを積極的
に行ってください!「一
生残る、大学生活の思い
出」のために!。



新潟国際情報大学
学長 平山 征夫

高い志と心を豊かに 「大いなる人」になろう

本日、ここに新潟国際情報大学の第17回卒業式を迎えるに当たり、卒業生諸君に心から「卒業おめでとう」とお祝い申し上げます。

また、ご列席のご父母の皆さまにもお祝い申し上げます。4年間家庭から支えられ本日を迎えられたわけで、お喜びはいかばかりかと拝察申し上げます。ご臨席いただきましたご来賓の方々には御礼申し上げます。新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表しまして皆さまに御礼とお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんは今、卒業式に臨み、4年間の大学生活の思い出が走馬灯のように巡り感動で胸がいっぱいのことと思います。同時に4月からの社会人としての新たなスタートへの期待と不安も去来していることでしょう。

4年前、皆さんは大きな希望と勉学意欲に燃えて本学に入学してきました。そしてみずき野の四季は巡り、4年の歳月が経ちました。みずき野でのキャンパスライフは如何でしたか。この恵まれた自然の中でスポーツにいきしみ、友人と友情を育み、そし

て先生方の人間味溢れた指導のもと勉学に励んだ大学生活は、皆さんが最も輝いていた青春の尊い記念碑になることでしょう。

今春、みずき野から巣立ってゆく卒業生は、情報文化学科123名、情報システム学科164名、合計情報文化学部287名です。皆さんの多くは4月からはそれぞれが選んだ企業等で社会人としての新たな人生をスタートするわけです。実社会では大学時代とは違う多くの困難にぶつかることでしょう。プロの職業人として仕事で報酬を得るということは、それほど易しいことではありませんし、現在の世界の経済情勢はそれが容易でない時代でもあります。そうした時代を社会人として自立してゆくの

に、大学で学んだことはすぐ役には立たないでしよう。だから、当面皆さんは迷い悩むことでしょう。でも、大学で学んだことは必ず役に立ちます。本学で身につけた「学び、考え、判断し行動する」能力は、地中に深く伸びて木を支える根のように、人生で必要な栄養を送り続けてくれるはずで

みずき野で学んだことが社会で悩む度に解決の力として、生きる知恵として皆さんを救ってくれるでしょう。そう信じて卒業後も学ぶことを続けていってください。

長くデフレ経済化から低迷していた日本経済も「アベノミクス」による超金融緩和政策や、財政・成長戦略政策への期待から円安・株高が進んでいます。雇用情勢の好転は皆さんの就職活動に少しプラスになったかもしれません。でも長く日本銀行に奉職していた私には、中央銀行がマネーの供給を増加させることで経済を簡単に回復させようとするには疑問を抱かざるを得ません。デフレを貨幣問題として金融緩和で対応することは、一時的心理効果は生じても、本当の経済成長が働く人の人数と生産性、それに設備投資される資本量と技術

進歩がもたらすものであると信じているからです。

世界経済も米国の金融緩和効果などから回復過程にあるように見えますが、中国等の成長が鈍化してきていることや、欧州国家債務危機が奇妙な静けさの中で基本的解決対応がされないまま忘れかけられていること、金融問題として中国のシャドウ・バンキング問題という新たな火種が生じていること、そして何よりも近年最大の経済事件であった「リーマンショック発生に伴う世界不況」の原因となった巨大な投機マネーが放置されたままであること、ショック発生を機に見直されるべき現在の「金融資本主義」について全く議論されずに、TFP議論など「自由な競争が正義」という経済論理だけが生き残って、再び競争による成長を目指していることは、これから人類が地球と調和していかなければならない必須条件の中でこの選択で良いのかと危惧しています。

永年、政治・経済界で生きてきた私には、現在の世界の仕組みが「より多くの人々を

より幸せにする」べく創られた仕組みではなく、より利益をあげるのに適した仕組みであるからでしかなく、国益や企業益が優先されるシステムであることを知らされてきました。ですから皆さんがこれから生きてゆく時代をみると、必ずしも安心できる平穏な時代には見えません。でも皆さんはそうした時代を眺めてたじろいではかりはられません。私は最近ヨーロッパの中世の歴史に興味を持って調べていますが、長い人類の歴史を振り返れば、問題の無い時代なんてありません。闘いばかりしていた人類の歴史ですが、いつの時代でも時代を切り拓いていったのは若者です。若者は溢れんばかりの勇気をもって、年長者の知恵を助けにしながら、歴史を乗り越えていったのです。これからもそうやって立ち向かって行くしかないのです。時代に臆病にならず、勇気と希望を持って立ち向かってください。

卒業される皆さんに毎年申し上げていることですが、卒業後も自分の人生の夢を何時も持って、その実現に向かってチャレン



JABEE認定プログラム

10人に修了証書授与

「技術士」目指して社会へ

卒業式の当日には、JABEE(日本技術者教育認定機構)認定情報システム技術プログラムの修了証書授与式も行われました。

平成25年度の同プログラムを無事修了したのは10人。学長が一人一人に修了証書を授与して努力をたたえ、資格を取得し実社会で活躍するよう期待し激励しました。

このプログラムはJABEEが認定する教育制度で、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたという社会的評価が与えられます。修了生は文部科学省令で定める国家資格である「技術士」の第一次試験を免除される優遇措置が受けられます。また所定の登録を行うことで「技術士補」の資格を取得することができます。

これで本学情報システム学科を卒業し修了証書を取得した学生が合わせて111人となりました。

理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 星野 元

心を込めて仕事をし

社会に立ち向かって

本日第17回卒業式をめでたく迎えられました287名の卒業生の皆さん、卒業誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

角田山、弥彦山を望む「みずき野」のキャンパスに青春の思い出を深く刻み、いままさに巣立っていく皆さんに一言、激励の言葉を贈ります。

決して欲しいのです。困難に向き合っても、それを時代や他人のせいにならず、自らが勇気を持って立ち向かい、夢の実現に努めて欲しいのです。自分の人生は自分の足で立て、前を向いて自分の手で道をかき分けて進んでゆけませんか。全力を尽くした人生なら納得も出来ます。一度の人生です。納得のゆく人生を送ってください。

卒業される皆さんにも一つ申し上げたいことがあります。それは、先程申し上げたように経済優先・成長優先の時代だからこそ「人間性を大切に生きてほしい」ということです。それに関連して私が最も尊敬し、最も大切にされるべき経済学者であると思っています。ソースティン・ヴェブレンの言葉を紹介します。彼は1857年7月に生まれ、1929年8月に亡くな

ったノルウェー移民の子でアメリカの経済・社会学者です。シカゴ大に長く奉職、その後スタンフォード大、ミシガン大などを転々としました。女性問題などもあって学問的業績の割には恵まれず1929年10月ウォール・ストリートの株価大暴落に端を発した世界恐慌の2カ月ほど先に、自らの恐慌予告の結果を見ずに静かに亡くなりました。

一般的には制度派経済学の創設者として評価されていますが、世界恐慌発生後ケインズ経済学が注目され、その先駆者として評価されたほか、近年リーマンショックにより再び「資本主義が生まれながら持っている営利企業が産業体制を管理する矛盾は、経済破綻の大きなリスクとなる」との指摘が注目されています。私はヴェブレンがウ

新潟国際情報大学は昨年、開学20周年の記念すべき年を迎えましたが、私は12月に大学を運営する学校法人新潟平成学院の理事長に就任したばかりです。

本日は、先般、新潟日報社の社長を退任されたばかりの高橋道映相談役がご来賓としてお越しいただいておりますが、私も新潟日報社の同人であります。

私ごとで恐縮ですが、週ればちょうど半世紀も前になりますが、私は新潟地震の年、昭和39年に、県紙であります新潟日報社の記者としての道を歩み出し、その後経営者としても長い間新聞と付き合っておりました。そしてこの間、口癖のように後輩たちや社員に言い続けてきたのが「心を込めて」という言葉でした。

「心を込めて記事を書き、心を込めて新聞を作り、心を込めて読者に届けよう」と事あるごとに言うものですから、「またか」と辟易する社員も多数いたのではないかと思います。

なかでも私がとりわけ声を大にして、このことを言ったのは、今年10月でちょうど10年になる2004年の中越地震発生の時

オール・ストリートの株価暴落、バブル・崩壊を予告した時に、その根本原因として指摘した「人間は絶対的豊かさで満足出来ず、相対的豊かさでのみ満足する動物であるため、激しいバブルを産む危険がある」との言葉を今噛みしめています。この鋭い指摘はそのまま80年後に発生したリーマンショックでも全く当てはまっているからです。「人間は経済的欲求を際限なく追い求めて何処まで行くのだろうか」と暗然とした想いで今を眺めています。私は最近講演等で「奪い合えば足りないが、分かち合えば余る社会」を目指すことを訴えているのもそうした想いからです。

このヴェブレンの言葉は「人間にとつて大切なこと、真の幸福の条件は経済的豊かさにあるのではなく、もっと別なところに

でした。記者たちは、それこそ泣いたり、叫んだり、泥まみれになって被災地を走り回り、「心を込めよう」という私の口癖に應えるように記事を書き、写真を撮り続けました。このことは私の最大の誇りでもあるのですが、情報が途絶えて何が起きたかもよく分からない中で孤立感を深めている山古志、川口などの被災地に号外や朝刊を届けた時、避難所の住民から思わず歓声が上がったという話を、ヘリコプターで届けた販売局の社員から聞きました。新聞が被災地を励まし、勇気づけたのです。電気やガス、水道と同じように「心を込めて」作った新聞が、まさにライフラインの一つになったと私はその時確信しました。

皆さんは今日この日をスタートラインに、実社会に一步を踏み出すわけですが、人生これ、という決まった生き方はありません。

一人ひとり、それぞれの長い人生を生き、それぞれが異なる頂上、高さを持つ人生の山々を一步一歩登っていくことになりま

ある「ことを意味しています。ややもすると、人はマネー重視の風潮の中で、「一番大切な人生の生きがい」を見出すことを怠りがちになります。どうか高い志を持って、心を豊かにし、人間味に溢れた「大いなる人」になる努力を常にしてください。その際、他人のために役立つ人になってください。あるアフリカの国の諺に「右手は左手のために、左手は右手のために」という言葉があります。私たちは自身の存在が自分だけのためだけでなく、他人のためにもあることを忘れないでください。

最後に卒業後も本学に熱い想いを寄せ続けてくださるようお願いいたします。本学は昨年創立20周年を迎え、この4月から新たな学部体制の下で21年目のスタートを切ります。引き続き本学が地域に必要な大学であり続けるとともに、この地域で活動している本学の卒業生にとつて、誇りの持てる母校であり続けたいと思っています。これから皆さんとは卒業生としてお付き合いしてゆくこととなりますが、街で逢ったら「学長、大学はどうですか」と声をかけてください。その時は「おおー！ しっかりした人生送っているな」と感じられれば学長としてこの上ない大きな幸せです。

皆さんの卒業後になって申し訳ありませんが、夏過ぎに20周年事業の「学生会館」が完成します。この会館が卒業生にとつても心の拠り所になることを願っています。同窓会活動等に大いにご利用くださるよう期待しております。

今年のみずき野への春の訪れは例年になく早そうです。それは本学として21回目の春であり、新入生を迎える季節でもあります。皆さんの後輩を迎えるわけです。人々はこうして春とともに新たな人生に向ってスタートを切ります。皆さんは社会人としての人生に歩み出します。そんな皆さんにあらためて卒業おめでとうと申し上げますと共に、その前途に幸多かれとエールを送って私のお祝いの言葉といたします。

だ一つ、いつまでも共通して持ち続けてほしいのが「心を込める」ということです。何事にも「心を込めて」一生懸命生きて、そして仕事をして、社会に立ち向かっていてほしいと願っております。

人は長い人生の中で多くの失敗を体験します。しかし、心を込めたうえでの失敗なら悔やむことも少なくて済むでしょうし、仮に迷惑をかけた相手がいたとしても、心を込めた行為であればその相手の方の心にもきっと響き、理解をしてくれることでし

卒業生代表 答辞



(総代)情報システム学科
渡辺 景子

貴重な学び、多くの出会い 支えてくれた全ての人に感謝

日がだんだんと長くなり、寒さも和らぎ過ぎしやすい季節となりました。春めいてくるとともに、私たちも一つの節目を迎えます。

本日は私たちのために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。本日、私を含め287名が晴れて卒業することとなりました。これまでご支援を賜った全ての方々に卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

4年前、期待と不安を胸に新潟国際情報大学の門をくぐったことが昨日のこのように思い出されます。時の流れは速いもので、4年間の大学生活はあっという間に感

よう。そして「心を込めた仕事」なら必ずや地域や広く社会にも響いて、成功につながっていくものと確信しております。

成功体験よりも失敗体験の方がつらい半面、教訓に富んでいると言われます。しかし、それは「心を込めた」結果の失敗体験だからこそ、貴重な教訓を得られる、ということではないでしょうか。

東日本大震災から3年が経過し、いまなお27万人近くの方々がつらい避難生活をしている現状を私たちは決して忘れてはなら

じられ、とても短かったように思います。そして、このように楽しい時間を過ごしてこられたのは、教職員の皆さま、家族、友人など、多くの人たちの支えがあったからです。心より感謝申し上げます。

私は、世の中の情報化が進む中、それについて行くための知識を学びたいと思い本学へ入学しました。カリキュラムには情報システムに関する知識、技術だけでなく、経営学や社会学、語学など幅広い分野があり、将来具体的にやりたいことを見出せていなかった私は、この大学でそれが見つけられるかもしれないと感じました。

そんな中で出会ったのが人間工学です。物やシステムを人のために使いやすく改良していくことに、面白さとやりがいを感じました。そして、この分野を学びたいと強く思ったことが、研究室を選択する決め手にもなりました。卒業研究では一から物を改良することの難しさを実感し、くじけそうにもなりました。しかし、人間工学の楽しさ、成果が見られることへのよろこびを求め、懸命に努力し、研究を形にすることができました。また、この出会いは就職活動にも影響し、私は人間工学の学びを生かせる仕事に就きたいと思い活動を行いました。大学での学びはその後の人生に影響を与える貴重な時間なのだとあらためて感じられました。

大学で学んだことは勉強だけではありま

ませんが、いま世界各地では国家間や宗教的対立から紛争が絶えず、また我が国では東京電力福島第一原発への対応や、高齢化の問題、異常気象による災害の多発などが重くのしかかり、皆さんもこれから先、かなり生きづらい苦しい局面に立たされるかもしれません。しかしそうしたなかにあっても決してくじけず、私が申し上げたことを胸に刻み、正面から気概をもって突き進んでほしいと願っています。

誠心誠意で心を込める、ということが生

せんでした。私は環境研究部NUS Ecoに所属し、ゴミ拾いなどの身近な活動をはじめとしたボランティアの経験を通して、地球環境を考える機会を持つことができました。また、先輩、後輩にも恵まれ、他大学と親交を深める機会も持つことができ、サークル活動を通して、今まで以上に幅広い交友関係を築くことができました。講義では学ぶことができない人と人との交わりをサークル活動で経験できたことは、今後社会に出て生かせることだと思います。

今日を節目として、私たちはそれぞれ新しい道へと進みます。大学4年間で、知識・経験・交友関係を数多く積んできました。私たちが、これから歩んで行く道には楽しいことだけでなく、辛いことも待ち受けているかもしれない。しかし、大学生活で得てきたことを糧にして、諦めずに努力し乗り越えて行きたいと思っています。

最後になりましたが、4年間ご指導を賜りました教職員の皆さま、今まで温かく見守ってくれた家族、多くの時間、苦楽を共にした友人たち、その全ての方々に心より感謝致します。

本日ご臨席の皆さま、後輩の皆さんのご健康とご活躍、そして開学20周年を経て、新たな歩みを始める新潟国際情報大学のさらなる発展を願い、答辞とさせていただきます。

祝電

順不同

易しいことではありません。皆さんには、併せて「心は心でなければ磨けない」ということも覚えておいてほしいと願っています。

最後になりましたが、本日多数ご列席賜りましたご父母の皆さまはじめ、就職などご支援をいただいております企業関係のご来賓の皆さま、そして今日まで教育を通して学生たちの人間形成にご尽力いただきました教職員の方々に心より深く感謝を申し上げます。私の祝辞といたします。

日本私立大学協会会長

大沼 淳様

新潟県知事

泉田 裕彦様

新潟市長

篠田 昭様

新潟商工会議所会頭

福田 勝之様

関越ソフトウェア株式会社

矢島 徹雄様

株式会社ゲイン 代表取締役

関口 千房様

セコム上信越株式会社

野沢 慎吾様

代表取締役会長

小松 良平様

代表取締役社長

清水 保様

株式会社総研システムズ

清水 保様

代表取締役社長

廣田 幹人様

新潟総合警備保障株式会社

廣田 幹人様

代表取締役社長

山城 由紀雄様

株式会社日本ドリコム

社員 一同様

代表取締役

樋口 恵一様

ハミングツアー

樋口 恵一様

代表取締役

清水 辰雄様

月岡温泉ホテル清風苑

小池 信介様

株式会社マリイ 代表取締役

石崎 徹様

株式会社リオン・ドルコーポレーション

石崎 徹様

代表取締役社長

石崎 徹様

衆議院議員

石崎 徹様



平成25年度（第17回）卒業式が3月21日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）コンサートホールで行われ、287人（情報文化学科123人、情報システム学科164人）が晴れやかに新しい社会へ巣立っていききました。式典ではまず学位記授与が行われ、卒業生全員が名前を呼ばれて登壇し、平山征夫学長が

勇気と希望を持って 新しい時代を切り拓こう

新しい道を努力し乗り越えます」と答辞、新生活へ臨む決意を述べました。

最後に卒業生と父母、教職員ら全員が一緒になって、合唱部、吹奏楽部の演奏で校歌を歌い、大きな会場いっぱい祝福の拍手が響きました。

同日夕方には、恒例の祝賀会がANAクラウンプラザホテル新潟で開かれました。晴れ姿の卒業生は教職員との記念撮影や乾杯を繰り返して、「友と語ろう夢創る明日を」と、別れを惜しみながら学生時代最後のパーティーを楽しんでいました。

第17回までの卒業生は合計4,958人に

年 度	卒業者数	情報文化学科	情報システム学科
平成9年度(第1回)	295人	116人	179人
10年度(第2回)	290人	124人	166人
11年度(第3回)	303人	126人	177人
12年度(第4回)	294人	114人	180人
13年度(第5回)	291人	118人	173人
14年度(第6回)	277人	111人	166人
15年度(第7回)	314人	118人	196人
16年度(第8回)	294人	115人	179人
17年度(第9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
22年度(第14回)	310人	117人	193人
23年度(第15回)	272人	110人	162人
24年度(第16回)	286人	111人	175人
25年度(第17回)	291人	124人	167人
合 計	4,958人	1,983人	2,975人

※9月卒業生含む

平成25年度 卒業生特別表彰

学長賞（学業成績優秀者）

情報システム学科（総代） 渡辺 景子

情報文化学科 日本 あす香

学術賞

情報文化学科 高橋 菜田

ロシア語スピーチコンテストに挑戦して、第11回新潟ロシア語スピーチコンテスト初級の部で優勝。その後も同コンテストにおいて本学学生が活躍する先例をなした。また、アムール川洪水救援募金活動の参加など、各種のボランティア活動に積極的に参加した。

情報システム学科

井島 健太

ITパスポート試験（第Ⅱ種）を皮切りに、基本情報処理技術者試験（第Ⅱ種）、応用情報技術者試験（第Ⅰ種）、さらに難度が高く高度な知識が要求されるネットワークスペシャリスト試験（第Ⅰ種）に在学中に合格した。

情報文化学科

中原 潤佳

TOEICで本学資格取得奨励奨学金第Ⅰ種の成績を取った英語能力を生かして、国際交流インストラクターとして初めて「英語によるワークショップ」を展開させ、在学4年間にわたり県内の小・中学校・高校で同授業を数多く実施した。

国際交流賞

情報文化学科

石井 太一郎

同好会「学生団体TIC」を設立して代表として務め、日本学生会議所新潟支部の運営などの活動をするともに、新潟市の青年代表としてウラジオストクを訪問してウラジオストク青年国際交流フエスティバルに参加し、新潟市の魅力を積極的に伝えるなど国際交流に貢献した。

課外活動賞

情報文化学科

清野 未夢

公認団体「ゴルフ部」を設立して代表を務め、競技実績においても、第13回県知事杯新潟県ゴルフ選手権競技優勝、第49回関東学生女子ゴルフ選手権優勝など、多くの大会に積極的に参加して優秀な成績を取った。

情報システム学科

須田 彩未

同好会「チロコ新潟国際情報大学ボランティアセンター」を設立して代表を務め、特別支援教育ボランティア（赤塚小学校）や被災地支援ボランティアをはじめ積極的に数多くのボランティア活動を企画し、参加した。